

小 学 校

平 成 5 年 度

教育研究員研究報告書

家 庭

東京都教育委員会

平成5年度

教育研究員名簿

分科会	区市町村名	学 校 名	氏 名
第五学年 分科会	品川	原 小	○ 小林 三枝子
	大田	蒲 田 小	山城 弥生
	豊島	時 習 小	中島 貴志子
	練馬	富 士 見 台 小	東 千恵美
	小平	小 平 第 六 小	飯 嶋 洋 子
第六学年 分科会	江 東	大 島 中 央 小	遠 藤 明 美
	北	西 浮 間 小	平 山 恵 子
	足 立	梅 島 第 一 小	田 代 郁 子
	武 蔵 野	第 四 小	◎ 長 田 幸 子
	多 摩	北 諏 訪 小	萩 原 房 子
日 の 出	本 宿 小	高 橋 三 恵 子	

◎世話人 ○副世話人

担 当 課 長 教育庁指導部初等教育指導課長 小 島 宏
 担 当 課 長 東京都多摩教育事務所指導課長 松 丸 挙 一
 担当指導主事 東京都多摩教育事務所指導課指導主事 小谷野 茂 美

自らの生活に関心を持ち、
主体的に考え実践する児童の育成

——「被服」領域の指導を通して——

目 次

I	研究主題設定の理由	2
II	研究の基本的な考え方	3
III	研究内容	4
	1. 実態調査	4
	2. 指導計画と評価計画	8
	3. 指導事例	12
	第5学年	
	事例1「楽しい小物を作ろう」	12
	事例2「オリジナルのふくろを作ろう」	15
	第6学年	
	事例1「ものしり博士になろう」	19
	事例2「ためしてみよう」	22
IV	研究のまとめと今後の課題	24

自らの生活に関心を持ち、主体的に考え実践する児童の育成

——「被服」領域の指導を通して——

I 研究主題設定の理由

今日、学校教育に求められていることは、児童一人一人の個性を生かし、自ら学ぶ意欲と主体的に生きるための資質や、能力を育成することである。

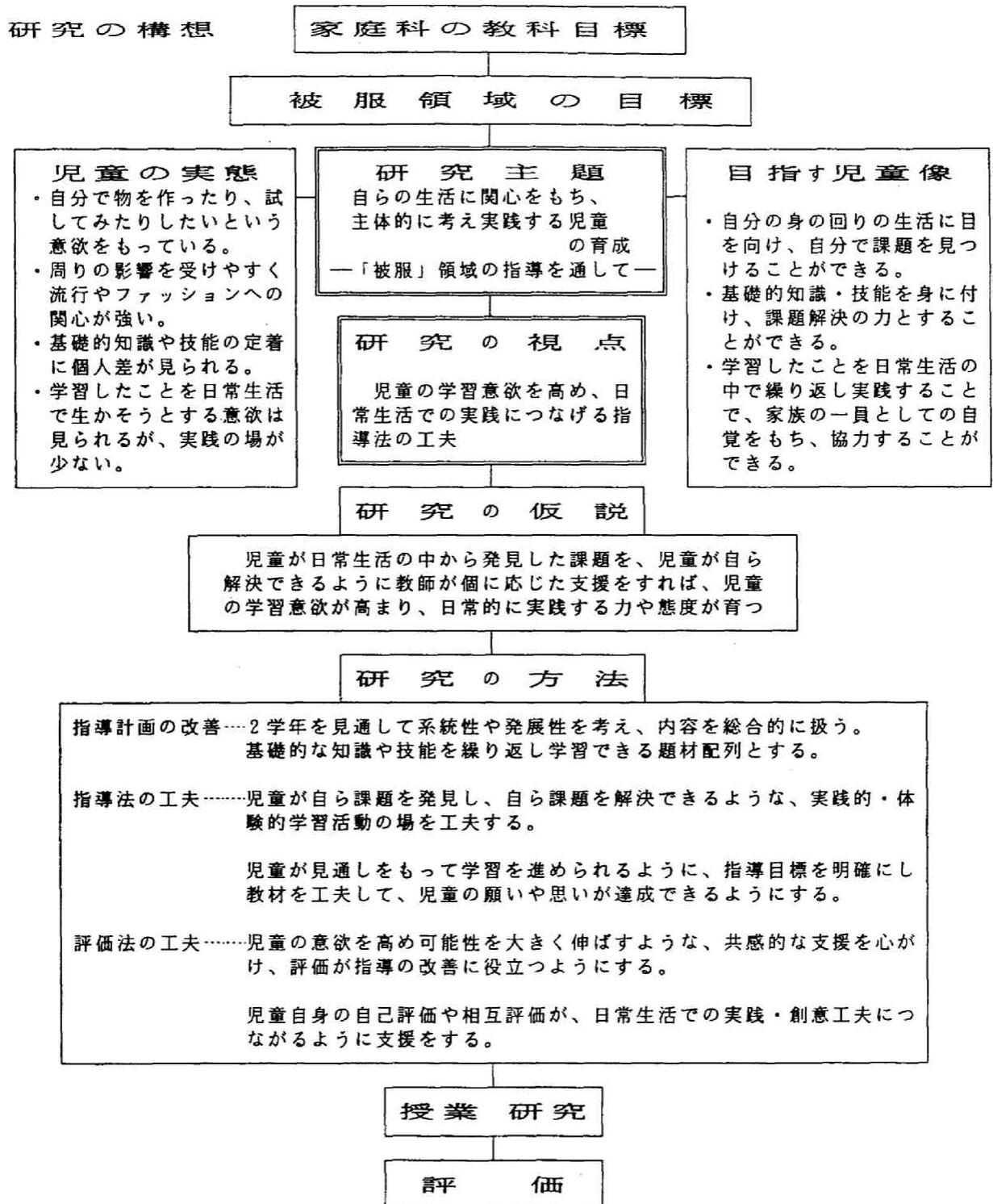
家庭科においても、自らの日常生活や家庭生活に目を向け、自分や家族の生活を楽しみながら、生活に必要な知識や技能を意欲的に習得しようとする子どもや、生活上の課題を自ら見付け、解決し生活に生かそうとする子どもを育成することが大切である。

これらのことをうけ、「被服」領域の指導を通して研究を進めることにした。被服の製作、着方、選び方などの学習は一人一人の個性がより発揮される。しかし、児童は、自分と周りの人や物との関係や、自分としての考え方、行動の仕方などについて深く考えてはいないことが多い。また、数枚の衣服が暑さ、寒さをしのぎ、体を保護する機能として必要だった時代に比べ、今は、自己表現の手段としての衣服の機能も見逃せない。実態調査の結果からは、かなりの児童が衣服の購入に関心をもっていることがうかがえたが、日常の児童の様子を観察していると、人と同じような物を着て安心するためであったり、その時の気分で必要のない物まで買っている実状もある。そこで、「被服」の学習を通して、自分にとって本当に必要なものは何なのかを考えられる力や考えたことを実践する力を育てたい。

5年生になって、家庭科学習を始める児童は、一様に目を輝かせ、はやく裁縫箱の蓋を開けたいと願っている。その初めのワクワクした気持ちをなんとか持続させたいものだと思う。実態調査によっても児童は、被服製作を楽しんでいることがうかがえた。しかし、技能面で不安を感じている児童も少くないことが分かった。また、家庭生活での、実践の場や、機会が少ないことも分かった。そこで、まず、児童の作りたい、分かりたいという願いを大切に、一人一人の学びたいという意欲に応じ必要な知識や技能を身に付けることができるような授業の工夫を図ることが大切だと考えた。次に、一人一人の学習意欲が学習過程を通して持続し、さらに高まるためには、時間毎に成果がつかめ、または、次のステップへの見通しがもてるような評価や言葉かけが大切だと考えた。自分の力で、問題を解決した満足感、自分の手で作り上げたという成就感が新たな意欲を喚起するものと考えられる。そして、その意欲が、学習したことを生活に生かし、生活をより豊かに楽しくしようとする実践力を育てることにつながると考え、本主題を設定した。

II 研究の基本的な考え方

研究主題に迫るために、下記のような研究の構想を立てた。研究の推進に当たっては第5学年分科会と第6学年分科会に分かれ、それぞれの分科会において授業研究を行い、研究を進めることとした。



Ⅲ 研究内容

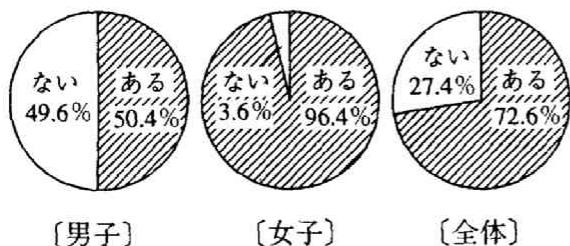
1. 実態調査

- (1) 調査目的 「被服」領域における、作品作りへの関心や意欲、家庭の仕事への関心や参加の様子、基礎的な知識や技能の定着に関する調査をし、指導に役立てる。
- (2) 調査対象 都内公立学校11校の第5学年 980名 第6学年 986名
合計 1,966名
- (3) 調査時期と方法 平成5年6月下旬から9月中旬 質問紙法による無記名調査
- (4) 調査結果と考察 (○結果 *考察)

〈第5学年分科会にかかわる調査〉

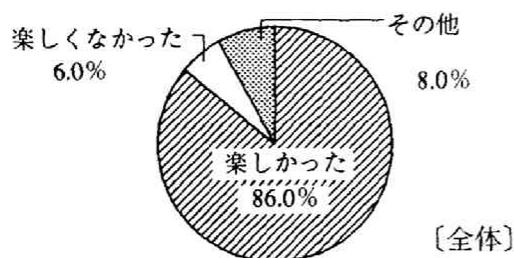
① 第5学年対象

ア. 5年生になるまでに、布や針を使って何かを作ったことがありますか。

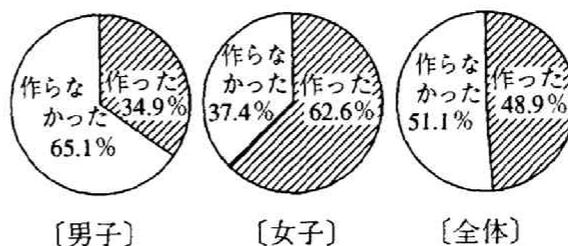


* 多くの児童が経験があると答えているが、授業中に観察すると、技能はまだ未熟である。児童の「できる」という意識と、実際の技能とのギャップが感じられる。しかし、以前の経験が学習への不安を減少させ、製作への意欲につながると考える。

イ. 小物作りは楽しかったですか。



ウ. 学習後、他にも作りましたか。



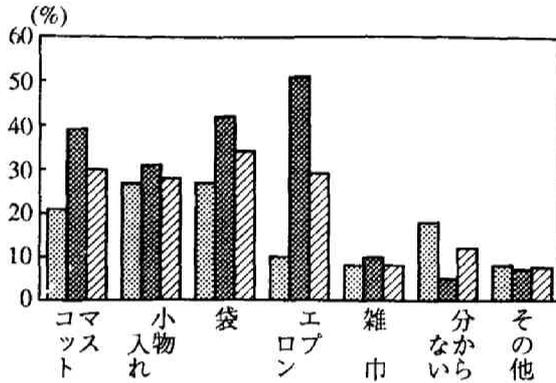
エ. 作らなかつた理由は何ですか。



○ 時間がないという理由が一番多く、20%ある。また、作りたい物がなかつたと答えた児童も10%いる。

* 楽しくないから、うまく作れないからという理由は大変少なく、時間や材料が十分であれば、多くの児童が実践したと思われる。

オ. 布や糸を使って、どんな物を作りたいですか。(複数回答)

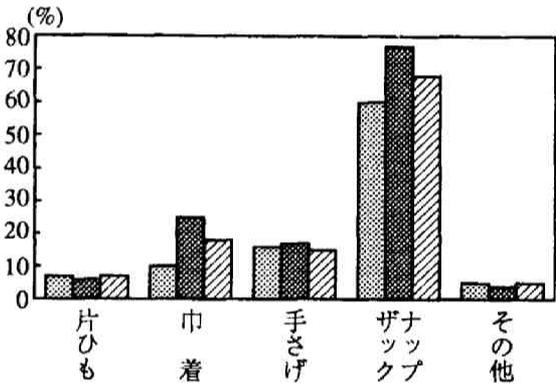


○ 男女ともマスコット、小物入れ、袋など、これから学習する物への希望が多い。

女子は、エプロンなど、より大型の物への希望が多く、男子は少ない。

* 男女とも製作への意欲が高いことがうかがえる。

カ. どんな形のふくろを作ってみたいですか。

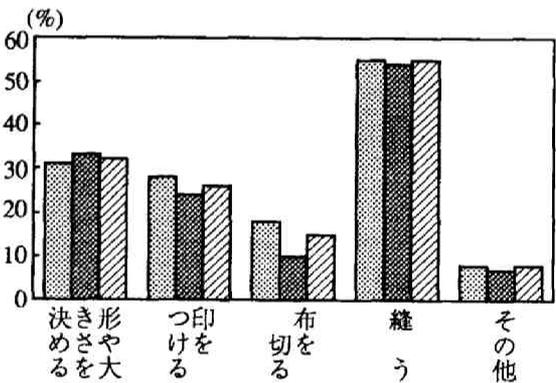


○ ナップザック型が68%と、一番多いが、他の形を希望する児童も32%いる。

* 児童一人一人の思いを生かした物が作れるよう、指導の手だてを考える必要がある。

② 第6学年対象

ア. 布や糸を使って作品を作っていた時、難しかったこと、困ったことは何ですか。



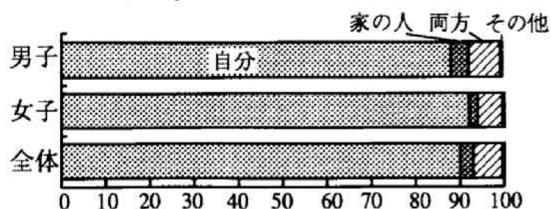
* 縫う経験を積み重ねていないために、困難を感じた児童が多いようである。繰り返し適切な指導が必要である。また、形や大きさを決めることが二番目に多いことから、そのための指導や支援の工夫が課題となる。

多くの児童が、手近な材料を使って、簡単な物を作っていることが分かり、製作意欲が旺盛であることがうかがえた。技能的に困難を感じてはいるが、学習を楽しんでいることも分かった。しかし、基礎となる縫う技能に対する苦手意識があり、また、製作計画の段階で形や大きさなどを決めることが難しいと感じていることも分かった。これらのことは、製作への意欲を阻害するものであると思われる。以上のことから、製作意欲を持続させるための指導や支援の工夫が必要と思われる。

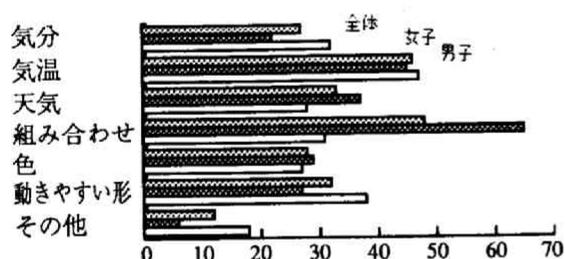
〈第6学年分科会にかかわる調査〉

第6学年対象

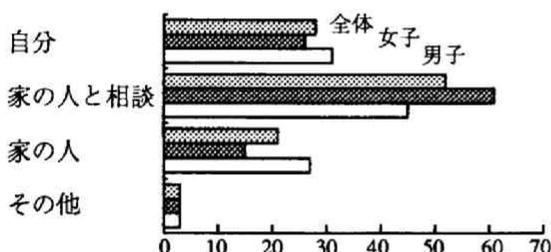
ア. 朝、学校に着て来る服を選ぶのは、だれですか。



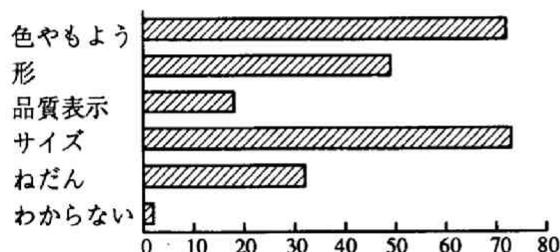
自分で選ぶ人は、どんなことに気を付けて選びますか。



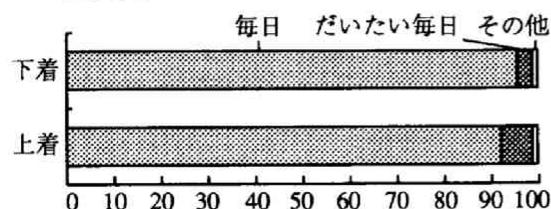
イ. 通学服を買う時、選ぶのはだれですか。



自分で選ぶ人は、どんなことに気を付けて選びますか。



ウ. 下着・上着は、どのくらいで、着替えますか。



○ 朝、通学服を自分で選ぶ児童は、80%にのぼっている。

* 昭和51年の教育内容現代化の資料では52%となっているので、自分の着衣に対する関心は高まっているととらえることができる。

○ 選び方では、天気・気温を考える児童が半数にも満たない。動きやすさで選ぶという解答も少ない。

* 第5学年の衣服の着方の学習が、生活の中で生きていないことが分かる。女子では組み合わせで選ぶというのが66%と目立ち、ファッションへの関心が高いことが分かる。

○ 通学服を購入する時、家の人まかせ等で自分がかかわらない児童は、30%以下である。

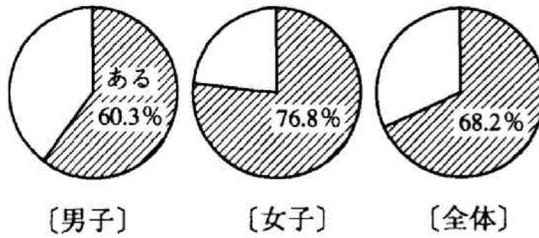
* 多くの児童が衣服の購入に参加していることから、消費者教育の必要性があることが分かる。

* 衣服の着方と購入時の選び方は、切り離せないものであり、選び方を学習する時には、着方についても学習する必要がある。

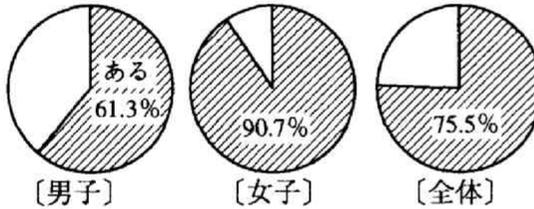
○ 下着・上着ともに、90%前後の児童が毎日着替えている。

* 昭和57年の教育開発委員会の資料では調査時期(6月)が同じであったにもかかわらず、下着を毎日着替えるのは66%とあるので、衣服の清潔に対する関心は、高まっていると見られる。

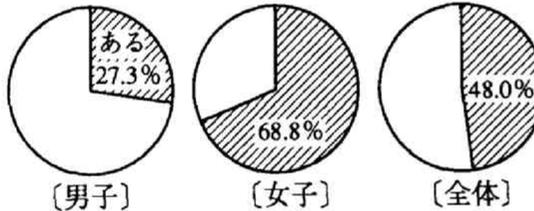
エ. 家庭で洗濯をしたことがありますか。



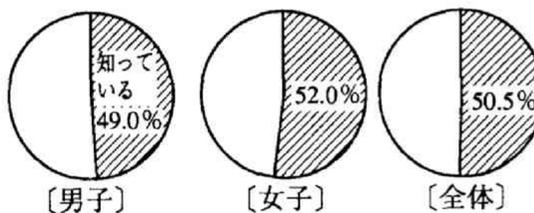
オ. 家庭で、アイロンをかけたことがありますか。



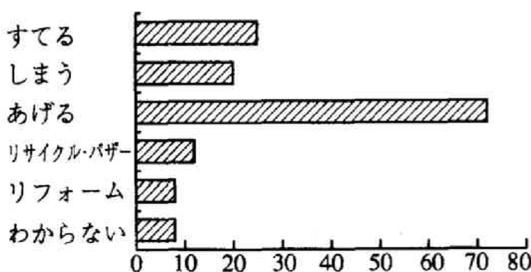
カ. 家庭で、ボタン付けをしたことがありますか。



キ. 家庭で使っている洗剤の種類や名前を、知っていますか。



ク. 不用になった服をどうしていますか。



以上のことから、生活を見つめる目を育て、実践に結び付けやすい形で指導を行うため、指導計画を改善し、指導法を工夫することが必要である。

○ 洗濯の経験がある児童は、70%を割った。

* 昭和48年の教育研究員研究報告書では90%となっていることを考え合わせると家庭の仕事をしなくなっていることが分かる。さらに調査をすると、男子は学校で使う自分の物を手洗いすることが多く、女子では、家族の分まで洗うこともあって、洗濯機使用が多かった。洗濯の学習は、実践経験を踏まえながら、基本を定着させる必要性のあることも分かった。

○ アイロンかけは、学校で使うハンカチ・ナプキン・はちまきなどを中心に実践していた。

○ ボタン付けの経験は、男子では27%となっている。

* ボタンの付いている服が少なくなってきたこともあろうが、5年のボタン付けの指導に加え、6年の手入れの中でボタン付けを扱うなど、より実践の場面に近づける必要がある。

○ 洗剤については、弱アルカリ性の合成洗剤名が多くあげられ、石鹼は少なかった。仕上げ剤・漂白剤を書いたものもあった。

* コマーシャルなどの情報で、商品名はよく知っているが、家庭でどんな物が使われているかについては関心が薄い。洗濯の学習と共に指導をする必要がある。

○ 不用になった服は兄弟間で譲ることは多いが、バザー等での譲り合いは少ない。

* 子どもの衣服を扱うバザーの場が幼稚園規模のもので、地域での取り組みの少ないことや、他人の衣類への抵抗感があるようだ。環境教育を含めて、リフォームなどに気付かせ自分なりに実践できるようにする必要がある。

2. 指導計画と評価計画

(1) 指導計画作成上の基本的な考え方

- ア 題材の配列は、2学年を見通して、系統性や発展性を考え、内容を総合的に扱うようにする。
- イ 児童が意欲的で主体的な活動ができるようにするために、児童の身近な生活の中から課題を見つけてその課題を解決するような、課題発見・解決の場を設ける。
- ウ 児童の主体的な学習を支援するために、指導と評価を一体化する観点から、評価計画を指導計画の中に位置付ける。また、学習指導案に評価の観点や児童に対する支援の手だてを入れるように工夫する。
- エ 消費者として必要な知識や技能についての指導を題材の中に位置付け、よりよい消費者としての実践的態度を育てる。

被服領域の指導計画と評価計画 第5学年

題材名	評価の観点	家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力
考えて衣服を着よう (5)	1、衣服について知ろう (2) 2、ボタンをつけよう (3)	・自分の生活を楽しみながら見つめようとしている。 ・いろいろな衣服に関心を持ちながら発表しようとしている。 ・一日のいろいろな生活場面を思い浮かべながら調べようとしている。 ・裁縫用具の扱い方について興味をもって調べようとしている。 ・楽しみながら作品を作ろうとしている。 ・いろいろなボタンの種類について興味をもち、付け方を調べようとしている。	・衣服の組み合わせを工夫しながら考えている。 ・マスコットのデザイン、形などを工夫している。 ・学習したことを生活に生かそうとしている。
楽しい小物を作ろう (6)	1、自分のしるしを作ろう (2) 2、小物作りをしよう (4)	・作りたいしるしを考え、意欲をもって製作に取り組もうとしている。 ・身近にあるいろいろな小物に関心を持ち、作りたい小物を考えることができる。 ・意欲的に楽しい小物ができるような製作計画が立てられる。 ・計画にしたがって、意欲的に製作に取り組み、実生活に生かそうとする態度が見られる。	・もっとよいアイデアはないか工夫しようとしている。 ・自分らしいアイデアで作品になるように工夫している。 ・いろいろな材料を使って、自分らしい作品の工夫をしている。
ミシンぬいよう (8)	1、ミシンとわたしたちの生活 (1) 2、ミシンにくわしくなろう (4) 3、ミシンでぬってみよう (3)	・ミシン縫いについて興味・関心を持ち、進んで学習に取り組もうとしている。 ・ミシンの学習について進んで学習計画が立てられる。 ・意欲的にから縫いの練習をしている。 ・ミシンの学習を積極的に作品に生かそうとする態度がみられる。	・工夫してミシン縫いの作品を作ろうとしている。
オリジナルのふくろ (11)	1、ふくろ作りの計画を立てよう (3) 2、ふくろを作ろう (7) 3、ふくろを使ってみよう (1)	・進んで話し合いに参加しようとしている。 ・見通しをもって、楽しみながら製作に取り組んでいる。 ・生活の中で袋を活用しようとしている。	・自分の作りたい袋を紙で工夫して作っている。 ・自分らしい作品にしようと飾りの工夫をしている。 ・友達のよいところや工夫したところを認め、進んで取り入れようとしている。

〈第5学年〉指導計画作成上の留意点

- ア 基礎的な知識や技能を定着させ、しかも児童が関心や意欲をもって学習に取り組めるようにするために、それらの知識や技能が作品製作を通して繰り返し学習できるように題材の配列を工夫する。
- イ 児童が学習への関心や意欲をもって、個に応じ、自分の作りたい作品が製作できるように、学習内容や教師の支援を工夫する。
- ウ 作品の製作後には、自己評価したり、活用の仕方について話し合ったりする場を設定し、次の実践に向けて児童の意欲が高まるようにする。

生活の技能	家庭生活についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて衣服を選ぶことができる。 ・安全に気を付け、針やはさみなどを扱うことができる。 ・糸通し、玉結び、玉止めができる。 ・ボタンを正しく付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健衛生的、生活活動的、社会的などの衣服の働きが説明できる。 ・目的や場に応じて衣服を着替えることについて説明できる。 ・裁縫用具の種類や扱い方が分かる。 ・玉結び、玉止めの方法が説明できる。 ・ボタンの役目が分かる。
<ul style="list-style-type: none"> ・返し縫いやなみ縫いができる。 ・返し縫い、なみ縫いなどができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・返し縫いやなみ縫いの方法が説明できる。 ・小物の形や大きさを考え、材料や用具が分かる。 ・作りたい作品に合った布の縫い合わせ方が説明できる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ミシンの出し方、しまい方、コントローラーの踏み方などの操作ができる。 ・ミシン針を正しく付けることができる。 ・正しい順序でから縫いができる。 ・下糸をボビンケースに入れることができる。 ・上糸を正しくかけることができる。 ・安全に気を付けて試し縫いができる。 ・縫い始め、縫い終わりの縫い方が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミシン縫いの特徴や安全な取り扱い方が説明できる。 ・ミシン針や針棒のつくりについて言える。 ・から縫いの手順について書ける。 ・下糸のまき方や下糸の入れ方が分かる。 ・上糸のかけ方を図に書ける。 ・上糸の調節や縫い目の調節の仕方が分かる。
<ul style="list-style-type: none"> ・作りたい袋の形、大きさが分かるような紙の袋を作ることができる。 ・必要な型紙を作ることができる。 ・型紙に合わせて正しい布の裁ち方が分かる。 ・布に正しくしるしが付けられる。 ・手縫いで簡単な飾りを付けることができる。 ・手縫いやミシン縫いでじょうぶに縫うことができる。 ・アイロンで袋の仕上げをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・袋の形、大きさ、材質、はたきなどが言える。 ・作りたい袋の形を考え、製作計画を立てられる。 ・作りたい袋の形、大きさが分かる。 ・袋には縫い代が必要なことが言える。 ・目的に合わせた布の選び方が説明できる。 ・布の裁ち方について説明できる。 ・縫い方の順序が言える。 ・持ち手の付け方やひもの通し方が分かる。 ・安全なアイロンの使い方について説明できる。

〈第6学年〉指導計画作成上の留意点

ア 内容を総合的に扱うことにより、一人一人の考えや思いに合った課題を見付け、自分に適した学習方法で取り組めるようにする。

被服領域の指導計画と評価計画 第6学年

題材	小題材名	家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力
エプロンやカバーを楽しく作ろう 12	① エプロンやカバーを調べよう (0.5)	・エプロンやカバーの種類や役割などに関心を持ち、進んで調べようとしている。	
	② エプロンやカバーの製作計画を立てよう (1)	・エプロンやカバー製作の手順や作業の見通しをつけ、製作計画を立てようとしている。	・使いやすい形やデザインを考え工夫している。
	③ 形と大きさを考えよう (1)		・エプロンやカバーの使用目的に合った形や大きさを考えて表している。
	④ 材料や用具を準備しよう (1)	・エプロンやカバーに適した布やその他の材料を選び用意する。	・目的縫いやすさなどを考えて材料を選ぶことができる。
	⑤ 型紙をもとに布を裁ってみよう (2)		
	⑥ 順序よく縫ってみよう (6)	・製作計画に基づき能率よく仕事を進めている。	・位置、大きさ、縫い方を工夫してポケットをつけている。 ・工夫しながら装飾を考えている。
	⑦ 日常生活に活用しよう (0.5)	・製作したものを日常生活で活用し、さらに他のものを製作しようとする。	
日常着を気持ちよく大切にしよう 10	① 自分の生活をふり返ろう (1)	・自分の衣生活について関心を持ち、学習課題を見付けようとしている。	
	② もの知り博士になろう (5)	・学習課題について調べる内容の整理、発表方法などの計画を立てて進めようとしている。 ・意欲をもって自分の課題について調べようとしている。 ・友達の発表に関心を持ち聞いている。	・調べたことを図や絵、実験実習で表現したり説明したりできる。 ・不用になった衣服の利用を考え工夫することができる。
	③ ためしてみよう (3)	・手持ちの衣服との調和を考え自分らしさを生かし生活の場所にふさわしい衣服を選ぼうとする。 ・日常着に関心を持ち、進んで衣服の手入れや洗たくをしようとする。	・生活の場に応じた衣服の選び方、色や形など調和のとれた組み合わせ方を工夫する。 ・日常着の手入れや洗たくの仕方を工夫し、能率的に仕事をする。
	④ くらしに生かそう (1)	・各家庭での実践の発表に関心を持ち、聞くようとしている。	・日常着の整え方や手入れを工夫し、日常生活で能率的に実践しようとする。

イ 課題解決的学習を主体的に進めるために、学習の目標を明確にし日常生活を見直すとともに、標本や資料、視聴覚教材などの教材・教具の活用を図るようにする。

ウ 学習したことを家庭で実践し、発表の場を設けることにより、友達の様々な実践の様子を知り、自分の生活に生かし役立てるようにする。

生活の技能	家庭生活についての知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> ・エプロンやカバーの種類や使い方・役割などが分かる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・エプロンやカバーの製作の手順を説明できる。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体にあわせて型紙を作ることができる。 ・布の見積もりができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使用目的に応じた形や大きさの決め方を示せる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・使用目的に適した布地の選び方が説明できる。
<ul style="list-style-type: none"> ・布目の方向、型紙の置き方、まち針の打ち方、しるしの付け方、はさみの使い方を通して正しく布を裁つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的な布の裁ち方を示せる。
<ul style="list-style-type: none"> ・三つ折りの仕方、しつけのかけ方ができる。 ・場所を正しく曲がらないように、本縫いができる。 ・返し縫いの意味が分かり、じょうぶに縫うことができる。 ・安全に気を付けてアイロンを扱い、ひもを通して仕上げができる。 ・かんたんなかざりの工夫ができる。 ・ななめの布の扱いかたができ、縫うことができる。 ・ポケットの位置を考えてつけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縫い方の手順が説明できる。 ・ポケットの必要性が分かる。
<ul style="list-style-type: none"> ・衣服についている組成表示、取り扱い絵表示、寸法表示を見たり、縫製の仕方を調べたりして既製服を選ぶことができる。 ・ほころびに応じた直し方を考え、工夫してほころびを直すことができる。 ・衣服の布地の種類や汚れに合った洗剤を選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既製服を選ぶ時の観点が説明できる。 ・布地に適した洗剤の選び方や洗たくの仕方が分かる。 ・衣服についている表示の種類、見方、意味を言える。
<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場に応じて日常着を選んだり、持っている衣服との組み合わせを考えて選んだりすることができる。 ・布地にあった洗たくの実習ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常着の手入れや洗たくの必要性が分かる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・手持ちの衣服を作り直したり、譲り受けたりすることも衣服を整える方法であることが分かる。

3. 指導事例

第5学年 事例1

(1) 題材名 楽しい小物を作ろう (6時間)

(2) 題材設定の理由

これまでの児童の経験を調べてみると、クラブ活動や家庭で布や糸を使ってものを縫ったことのある児童が多いが、全く初めて裁縫を経験する児童も27%いる。児童は、これから学習する製作に対して、期待や関心をもっていたり、不安を感じたりしている。児童の学習に対する期待や関心をより高め、楽しみながら学習できるようにするためには、5年生の初めの時期に被服製作に関する知識や技能をしっかりと習得させるとともに、作品を作る楽しさ、作品が出来上がった満足感、使う喜びを十分味わえるようにすることが大切である。

本題材は、布を使って何か作りたい、自分の身の回りで使えるものを好きな飾りを付けて作ってみたいという児童の興味・関心を生かして自分で工夫した、生活の中で活用できる小物を製作することをねらいとしている。形や大きさ、飾りなどを工夫した自分らしい小物を作るために、色も豊富で扱いやすいフェルトで製作する。その中で布の裁ち方、なみ縫いの仕方など基礎的知識や技能が身に付き、縫うことの楽しさ、完成の喜びが味わえるものと思われる。

指導に当たっては、小物の実物や材料の見本、縫い方の資料などを多く用意して、児童が課題解決する時に役立つようにする。また、縫い方の学習をしたり、互いに作品を評価したりするために視聴覚機器を使うなどの教具を工夫する必要がある。

(3) 指導目標

- ① 布で作った簡単な小物の種類や役目が分かる。
- ② なみ縫い・返し縫いなどの布の縫い合わせ方や、布の裁ち方などの基礎的な知識や技能を身に付ける。
- ③ 使用目的に応じた小物の大きさや形の決め方、材料の選び方が分かる。
- ④ 製作に必要な用具の種類と扱い方が分かり、安全な取り扱いができる。
- ⑤ 小物作りの計画や製作に意欲的に取り組み、自分らしい作品になるように工夫できる。
- ⑥ 製作する楽しさ、出来上がった作品を使う喜びを味わうことができる。

(4) 指導計画 (6時間)

- ① 自分のしるしを作ろう……………2時間
- ② 小物作りをしよう……………4時間(本時)

本時の学習 「小物作りの計画」

ア 本時の目標

○自分らしいアイデアの小物を考え、意欲的に楽しい小物の製作計画を立てられる。

イ 本時の展開

学 習 活 動	支援 (◎) 留意点 (○) 評価 (・)
<p>楽しい小物を作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてをつかむ。 フェルトでできる、自分らしい、使ってみたい小物を作る。 	<p>○作りたい小物を考えてくるように、前時に課題として出しておき、本時の授業に意欲がもてるようにする。</p>
<p>作りたい小物は何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作りたい小物を発表する。 ペンケース、小銭入れ、さいふ、ポーチ、カード入れなど 	<p>・身近にあるいろいろな小物に関心をもち、作りたいものを考えることができる。</p> <p>(意…ノート・ワークシート・発表・観察)</p>
<p>小物作りの計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間作りをして、小物の製作計画を立てる。 <p>①形、大きさ</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙を折って、大きさを考える。 厚みの工夫をする。 ポケットを付ける。 カードの見本を入れてみる。 <p>②飾りの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 返し縫いで模様を付ける。 飾りボタンを付ける。 <p>③材料・用具</p>	<p>○小物の形や大きさが考えられるよう、フェルトと同じ大きさの色画用紙を用意しておく。</p> <p>◎アイデアの浮かばない児童には、小物や材料の見本を見たり、仲間の人と話し合ったりするように支援する。</p> <p>◎作り方の分からない児童には、「どうやってフェルトを折ったらいいのかな。」と言葉かけをする。</p> <p>◎「楽しい模様が付けられたね。」「ポケットが使いやすいそうだね。」と工夫した点について認めるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分らしいアイデアで作品になるように工夫している。 <p>(創…作品・観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小物の形や大きさを考え、材料や用具が分かったか。 <p>(知…作品・ワークシート・観察)</p>
<p>小物作りの計画を発表しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫したことや材料について発表し合う。 ・次時の学習について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に楽しい小物ができるような製作計画が立てられたか。 <p>(意…作品・ワークシート・発表・観察)</p> <p>○材料集めの時に気を付けたいことについてもふれる。</p>

〔関心・意欲・態度→(意) 創意工夫→(創) 技能→(技) 知識・理解→(知)〕

ウ 考 察

「楽しい小物を作ろう」の授業では、児童が最後まで意欲をもって学習できるように、6時間の指導計画で、指導法や評価法の工夫を行った。

〈教師の支援の在り方〉

① 本時の小物の製作計画では、「ポケットを付けたい。」「ビーズで飾りを付けたい。」などの児童が工夫した点について、教材提示装置を使って全体に紹介した。児童は、自分の作品についての自己評価を発表したり、友達の評価を聞いたりして次の活動への意欲が高まった。また、製作するものの種類によってグループを作り授業を行ったところ、課題解決する時に、同じ種類を製作する仲間の間で情報交換がなされ、互いに学習意欲を高め合うことができた。

② 小物製作の活動では、次のような支援を行った。児童が学習したことが他から認められ、自分のよさに気付けるような場面や機会をもつようにした。例えば、なみ縫いの仕方に不安をもっている児童に個別指導し自信をもたせ、その後「Aさんに教えてあげよう。」と言葉かけしたところ、A児に親切に教えた。他の児童から「なみ縫いが上手だ。」とほめられ、その児童は、それ以後自信をもって学習していた。

小物の製作に興味や関心をもっているが、製作が持続できない児童には、一時間の学習の中で、「今日は～までがんばってみよう。」「～ができるようにしよう。」などの支援をし、目標をもって学習したところ、児童が目標に向けて努力する姿が見られた。

〈評価について〉

① 児童に具体的な支援をするためには、適切な評価が必要である。そこで、ここでは、評価の方法として、授業中に評価するもの、課題などで事前に評価できるもの、授業後に作品やワークシートなどで評価するものを明確にしておいた。本時の授業では、事前に作りたい小物を考えてくることを課題とし、授業前に児童の思いや考えを知ることによって、製作計画における支援を効果的に行えるようにした。また、授業後には、児童が作った色画用紙の小物を評価することで「ポケットをどう付けたらよいか困っている。」「布の縫い合わせ方が分からない。」などの児童の学習状況が分かり、次の製作場面での具体的な支援を考えることができた。その結果、児童はつまづいたり、製作意欲を失ったりすることなく学習に取り組み、各自が見通しをもって製作ができ、楽しく小物を作ることができた。



資料1 作品の製作発表会

第5学年 事例2

(1) 題材名 オリジナルのふくろを作ろう (11時間)

(2) 題材設定の理由

児童はいろいろなふくろを持っている。自分でふくろを作った経験のある児童も多い。「楽しい小物を作ろう」の学習後のアンケートでもふくろは作りたい作品の一位になっており、ふくろ作りに興味や関心・意欲をもっている。その意欲を持続させたり高めたりするためには、作りたいふくろが児童自身の力によって完成できそうだという見通しがもてたり、完成した喜びが味わえたりすることが大切であると考えた。

そのために、自分の生活に目を向け、何を入れるふくろを作りたいのか目的を明確にし、実物大の紙のふくろを作り、作りたいふくろの形や大きさのイメージがつかめるよう教材の工夫をしたい。また、本題材に入る前に「ミシンぬい」の学習を取り入れた。これは、ミシンの学習を生かして丈夫なふくろの製作ができ、児童の希望する厚い布地も使用できると考えたからである。丈夫で目的に合ったふくろを作製することで、使う楽しさを味わい、生活の中で活用しようとする態度を養うことができると思う。今までに学習してきた基礎的な技能や簡単な飾りを利用して、自分らしいオリジナルなふくろになるように創意工夫させたい。

(3) 指導目標

- ① 日常生活で使われているふくろに関心をもち、ふくろの種類・役目・材質が分かる。
- ② 自分の作りたいふくろの形や大きさの決め方、材料の選び方、用具の扱い方が分かる。
- ③ ふくろの製作に必要な基礎的な知識や技能を習得し、自ら課題をもって製作に取り組むことができる。
- ④ 既習の技能をもとにオリジナルの作品になるよう創意工夫することができる。
- ⑤ 作品を作る喜びを味わい、日常生活で活用することができる。

(4) 指導計画

- ① ふくろ作りの計画を立てよう…………… 3時間 (本時)
- ② ふくろを作ろう…………… 7時間
- ③ ふくろを使ってみよう…………… 1時間

本時の学習 「ふくろ作りの計画を立てよう」

ア 本時の目標

- 作りたいふくろを紙で作り、実際の形や大きさを理解する。

イ 本時の展開

学 習 活 動	支援 (◎) 留意点 (○) 評価 (・)
<p>作りたいふくろの実際の大きさや形を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を思い出す。 ・持ってきた物を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○布でできた実物見本を多数用意し、教室の中央に置きいつでも見られるようにしておく。 ○座席は友達同士相談をしたり、学び合いができるように、作る形が似た者同士でグループを作る。 ○前時に立てた学習計画を提示する。
<p>ために紙でふくろを作ってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えた方法でふくろを作る。 包んでみる子 入れたい物の大きさを測る子 出来上がっている布の袋を参考にしながら作る子 わの使い方を工夫する子 ひも通しを工夫する子 ポケットを付ける子 持ち手を付ける子 まちを付ける子 	<ul style="list-style-type: none"> ○ふくろにした後開いて型紙にするので、大事な所だけホッチキスやセロテープ等で止めるように指示をする。 ◎困った時には作り方が分かるように紙のふくろの見本や部分的な見本を用意する。 ◎机間指導しながら工夫をしている点は「よく考えたね」「どうしてそうしたの」などの声かけをし、自信をもって作業ができるようにする。 ◎困っている児童には、「片方を止めてから入れてみてごらん」「持ってきた物を包んでごらん」など作業がしやすいように具体的な声かけをし、意欲をもって作業ができるようにする。 ・自分の作りたいふくろを工夫して作っているか。 (創…観察・作品)
<p>考えたり工夫したことは何だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えたり、工夫したことを発表する。 入れやすいように少しゆるくした いっぱい入るように大きめにした 縫う所を少なくした…「わ」の利用 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「よく工夫したね」と発表した内容を認める。また、他の児童の参考になるよう、どうしてそうしたのか、どうしたら作れるのかも発表するよう促す。 ○『ゆるみ』『わの利用』については、基礎・基本になるので復唱したり見本を見せたりして理解できるようにする。

学 習 活 動	支 援 (◎) 留 意 点 (○) 評 価 (・)
<p>まちを付けた ポケットを工夫して付けた ふたを付けた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達のよい所を見付ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>大きさや形で直したい所を直そう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分に足りない工夫を取り入れて直す。 ・ 次週は布の選び方と見積りを学習することを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで話し合いに参加しているか。 (関…発表・観察) <p>○どこを直したいのか挙手して確認する。</p> <p>◎大きなふくろにしたい児童には紙を切って付け足すこと、「わ」を切った児童にはセロテープで止め『わ』とふくろに書いておくように指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作りたいふくろの形や大きさが分かるような紙のふくろが作れたか。 (知・技…作品)

資料1 授業風景（紙でふくろを作る）



資料2 授業風景（作った紙のふくろ）



ウ 考 察

児童がふくろ作りへの製作意欲を高めていくために、教師はどのような支援をしたらよいかという視点で授業研究を行った。

〈意欲をもって活動するための支援〉

意欲を高めるためには、児童の作りたいふくろが児童自身の力によって完成しそうだという見通しがもてたり、完成した喜びが味わえたりすることが大切であると考え、まず、ふくろの中に入れたい物を決めた。「図書館で借りた本」「図工の道具」「旅行用小物」などいろいろ出てきた。作りたいふくろを絵に描いた後、不織布で作りたいふくろと同じ大きさ、同じ形のふくろを作った。不織布は中身が透けて見えたり、失敗しても簡単に直せたり、布と似た感じで口を閉めることができるので、作りたいふくろのイメージをつかむには大変よかった。また、児童が作りたいと思った形の実物見本を数多く用意し、見たい時には手に取って見られるようにした。その結果、分からない時には、見本を参考にしながら自ら学習しようとする意欲がでてきた。

〈支援の形態・気づきの共有化〉

意欲を高めるための支援については、教師から一人一人の児童への支援だけではなく、教師からグループへの支援や友達同士の支援（学び合い）も見られた。（例1）はI君への支援である。手で絞ってみることで大きさがちょうどよいか確認した。（例2）は、友達3人で「まち」を考えているところに教師が具体物を提示して支援した例である。児童は難しい学習内容でも気付いていることがある。ただその気づきは断片的なことがあるので系統的な知識になるように教師が支援をし、大切な気づきはクラス全体の気づきになるよう働きかけをしていきたい。

（例1）紙のふくろが大体でき、
それを見つめているI君

- T 「大きさはこれでいいの？」
I 「何とか入る。」
T 「何とか？ 形は何？」
I 「ナップサックにしたいの。」
T 「本を入れて見せて」
I （ふくろの口を手で締めて見る）
T 「どうだった？」
T 「ちょうどいいね。」
I （ほっとしたようにうなづく）

（ — は教師の支援）

（例2）S・K・Yは同じグループで“まち”作りに夢中

- S 「私この位のショルダーを作るの。」
K 「すごい大きいね。」
K 「まち どうして作るのかな。」
（両端をただ三角に折っている。
そのうち三人で見本の布のふくろを見に行くが、
やはり分からない。）
T 「このグループの人はみんなまちがあるんだよね。」
（出来ていないのを見て）
T 「見本があるからちょっと見て。」
S・K・Y 「それもう見たの。」
T 「そうか。では紙で作ったふくろを持ってくるね。」
（三人で見ている。）
Y 「あ！そうか。」
S 「ぬってからつまむんだよ。」

第6学年

(1) 題材名 日常着を気持ちよく、大切に着よう (10時間)

(2) 題材設定の理由

家事労働が簡素化され、有り余る物の中で育つ児童の衣服の選び方や手入れは、どうなっているのだろうか。

実態調査からは、自分の衣服に対する関心は高く、朝、通学服を自分で選ぶ児童は80%にもものぼっている。しかし、天気・気温・動きやすさなど衣服の働きを考えて選ぶ児童は少ないという結果がでている。一方、家庭での衣服の手入れについては、洗濯は電気洗濯機により家の人や家族のものを一括して洗っている場合が多く、児童が家庭で実践する場が少なくなっている。ほころび直し、ボタン付けについても知識として分かっているが、生活に生かし切れないのが現状である。

そこで本題材では、児童が毎日着用している衣服の中から課題を見付けることで関心を高め、「日常着を気持ちよく大切に着るにはどうしたらよいか」考えることを通し、日頃、何気なく着ている衣服について見直すことをねらいとしている。さらに、学習の中に実践的・体験的活動を多く取り入れることによって学習意欲が高まれば、児童が家庭の実情に合わせて工夫しながら実践する態度が身に付くのではないかと考えた。ここでは初めに衣生活について課題解決的な学習を行い、その後、児童が活動できる場を設けてためしてみる中で関連する衣服の選び方や手入れについて、それぞれの内容が深まるように配慮した。

(3) 指導目標

- ① 毎日着ている日常着について関心をもち、学習課題を見付けようとする。また、生活の場に応じて日常着を選び、進んで手入れをしようとする。
- ② 洗濯の必要性や衣服に適した洗濯の仕方が分かり、日常着の洗たくができる。
- ③ 衣服のほころび方とその原因が分かり、既習の知識や技能を生かして直すことができる。
- ④ 日常着や既制服の選び方が分かり、手持ちの衣服との調和を考えて選ぶことができる。
- ⑤ 不用になった衣服の有効利用を考え、創意工夫することができる。

(4) 指導計画 (10時間)

- ① 自分の衣生活をふり返ろう…………… 1時間
- ② ものしり博士になろう…………… 5時間 (事例1)
- ③ ためしてみよう…………… 3時間 (事例2)
- ④ くらしに生かそう…………… 1時間

事例1 「ものしり博士になろう」

ア 本時の目標

- 日常着の選び方や手入れについて、分かりやすく発表することができる。
- 友達の発表を関心をもって、聞くことができ、生活に生かせることを見付ける。

イ 本時の展開

学 習 活 動	支援(◎) 留意点(○) 評価(・)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">グループで調べたことを発表し合い生活に生かすことを考えよう</div>	<p>○掲示してある発表内容を自由に見て、関心を高める。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">友達がどんなことについて調べたのかを知ろう</div>	<p>◎自信をもって発表できるよう「発表する時は、ゆっくり大きな声で話そう」「失敗したり、間違えても笑ったりしないようにしよう」「質問に答えられない時は次回までに調べておこう」などと声をかける。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">グループごとに、調べたことについて発表しよう</div>	<p>・友達に分かるように、説明できたか。(意…発表)</p>
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">既制服を買う時 1班の発表</div> <ul style="list-style-type: none"> ・季節はずれの物は大きめの物を買う ・レシートをよく見る 	<p>◎発表を聞く児童には、発表内容が理解できるように「発表中は質問しないで、学習カードにメモしておこう」「実験の時には、見える位置に動こう」「質問は発表された内容からにしよう」などと声をかける。</p>
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">夏と冬の衣服のちがい 2班の発表</div> <ul style="list-style-type: none"> ・布の種類や厚みが違っていた ・服の形、色などが違っていた 	<p>・友達の発表を関心をもって聞いたか。(意…観察)</p> <p>◎「自分の経験からうまくまとめたね」「実験が手順よくできたね」「クイズが工夫されていたね」「声が大きく分かりやすく説明できたね」などと発表した内容や態度を認める。</p>
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">洗たくのしかた 3班の発表</div> <ul style="list-style-type: none"> ・石けんと合成洗剤では原料が違う ・汚れのひどい衣服の洗たくの方法 	<p>◎クイズに答えられない児童には「実験の最後に見たものだよ」「あの絵の中に描いてあるから見てごらん」などとヒントを出す。</p>
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">衣服の再利用 4班の発表</div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でできるリフォーム作品展 ・紙芝居リサイクル物語 	<p>◎学習カードに書けない児童には「掲示物や紙芝居をもう一度見てみよう」「実験を思い出してごらん」「クイズから分かったことがあるでしょう」などと言葉をかける。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">きょうの学習で、分かったことや自分の生活に生かそうなことを書こう</div>	<p>・日常着の選び方や手入れの方法が分かったか。 (知…学習カード)</p> <p>◎生活に生かせることを見付かるよう、個別指導し一人一人を見取る。</p> <p>・生活に生かすことを見付けられたか。 (創…学習カード)</p>

ウ 考察

「ものしり博士になろう」では、課題解決的な学習を取り入れ、主体的に考え、実践する力を高めたいと考えた。

- ① 前時では、日常着の選び方、手入れ、整え方について、衣生活全般が思い起こせるような、「いきいきぼうやのポロシャツ物語」の紙芝居を用いた。この紙芝居により、衣服を買う、選ぶ、着る、洗う、直す、再利用するなど、衣生活の問題点を見直したところ、児童は、自分の実生活を振り返ることができ、衣服について、知りたいこと、調べたいことがたくさん出された。その中で自分が一番調べたいところを学習課題にした。
- ② ①の課題について、「生活発見カード」を用いて自分の日常生活を見つめた。このことは、実生活と資料などで調べたことがらを比較することができ、自分達で考えながら学習を進めることができた。
- ③ 児童が選んだ課題をもとに、グループをつくったところ、児童は自らの発想を生かして洗濯してみる、実験してみる、家族や店の人に聞く、店へ行って調べる、図書館へ行くなど、意欲的に調べ、進んで課題に取り組んだ。
- ④ 本時の学習課題の発表では、紙芝居、ペープサート、4コママンガ、人形劇、実験など、児童が考えた方法で行われた。これは内容を深めると同時に、意欲を高めることにつながった。
- ⑤ 他のグループの課題についても関心を高めるために、発表する時、クイズを1～2問取り入れたところ、問題意欲が高まった。

資料1 学習カード

ものしり博士になろう

6年2組名所

1. 着るの必要をよく調べたり、色や柄、かわりやすく説明し、理由をOEで調べよう。(上の表にこのとき書きましょう)

30分 衣類を買う時

5分 夏と冬の衣服のちがいを

10分 かわりやすく説明し、理由をOEで

20分 調べたり、色や柄、かわりやすく説明し、理由をOEで

30分 調べたり、色や柄、かわりやすく説明し、理由をOEで

2. 着るの学習でわかったことを書きましょう。

Tシャツは、綿のものと、他の物とでつくられていること

3. 自分のこぼりの生活にいつか着る必要があるものを調べよう。

季節にあわせて、綿をえらぶ

資料2 授業風景(発表の時)



事例2 「ためしてみよう 夏の通学服を選ぼう」

ア 本時の目標

○夏の通学服を適切に選ぶことができ、日常生活の中で実践することができる。

イ 本時の展開

学 習 活 動	支援 (◎) 留意点 (○) 評価 (・)
<p>自分が選んだシャツはどこが夏向きか理由を発表しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えりがない・そでが短い・白い色 ・布が薄い・汗を吸いとる・風通しがよい・動きやすい・綿だから 	<p>○家から夏のシャツを選んで持ってくることで自分の衣服に関心をもつ。</p> <p>○できるだけ多くの意見が出るようにカードを用意しておく。</p> <p>◎理由が分からない児童には「布をさわってね」と言葉をかけ、参加できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏の衣服に関心もてたか。 (関…発表)
<p>夏はどんな通学服を選べばよいだろう</p> <p>① 夏のシャツが汗を吸収したり、風通しがよいのはなぜか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服が体温の調節をする働きがあるから <p>② 品質表示を調べてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綿100% ・綿50%ポリエステル50%など <p>③ 自分の持ってきたシャツを使って実験・観察をしてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・布の織り方——ルーペで見る ・通気性——ドライヤーで風を通す ・吸水性——水を落としてみる ・布の手ざわり——厚さ肌ざわりを感じとる ・動きやすさ——伸び縮みを調べる 	<p>○今日の学習のめあてを確認する。</p> <p>◎発表ができた児童には「よく分かったね」と認める。分からない時は「衣服の働きを思い出そう」とヒントを出す。</p> <p>◎品質表示が無いシャツの児童には「これから実験をして調べよう」と自信をもって活動できるよう配慮する。</p> <p>○いろいろな実験・観察ができるように教室の環境を整えておく。</p> <p>○いろいろな布を準備し、自分のシャツと比較できるようにしておく。(ガーゼ・綿平織り・綿メリヤス・ポリエステル)</p> <p>◎分かったことを学習カードに記録するよう声かけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視点を失わないで実験・観察ができたか。 (技…観察・学習カード)
<p>今日の学習で分かったことは何だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綿は汗を吸い取る ・通学服は活動しやすいものがよい ・布が薄いブラウスは風通しがよい ・えりやそでが大きく開いている方が涼しい 	<p>◎めあての内容に気付くことができた発表は大いに認め、意欲が高まるようにする。</p> <p>◎困っている児童には「どんな実験・観察をしたの」と学習を振り返ることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏の通学服の選び方が分かったか。 (知…発表・学習カード)
<p>自分の衣生活に生かせそうなことを見付け発表しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャツを買うときは品質表示を見る ・気温・天気に合わせて、衣服を調節する 	<p>◎家庭で実践しようとする気持ちの高まりに共感するように発表を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活に生かすことを見付けられたか。 (創…発表・学習カード)

ウ 考 察

児童が日常生活の中から課題が発見できるよう、自分が選んだシャツを使い、自らの課題に沿って実験・観察ができる活動の場を設け、関心・意欲が高まるよう工夫した。

- ① 日常生活との関連を図るために、自分のシャツの中で一番夏向きの通学服を一枚選び持って来ることとした。児童は「迷ったけれどこれにした」「この夏一番気に入って、着る回数が多かったシャツ」など様々な反応を示しながら持って来た。選んだ理由を考える場面では、一人一人の声を大切にしたい、という願いから理由を一言ずつ短冊カードに記入し掲示できるようにした。その結果、活発に自分の意見を発表することができ話し合いが深まり、日頃、何気なく着ている衣服について関心を高めることができた。
- ② 学習意欲を高めるために、教室内にいろいろな実験・観察が選択できるよう体験コーナーを作り児童が活動する場を設けた。自分の課題について、教師が準備した布だけでなく友達の布と比較する児童や、互いに協力し自分たちの力で工夫しながら調べている児童の姿が見られ、学習に取り組む姿勢は積極的で生き生きしていた。また、「他のTシャツと比べてみたい」「ポロシャツを買う時は品質表示を見て買いたい」という声があり、自ら考え判断しながら課題を解決する様子が見られ、楽しく学習できた。
- ③ 家庭での実践を高めるために、学習カードの中に「これからの生活に生かせそうなことがありますか」の項目を設けた。学習の中で児童自身が考え発表することで実践への意欲が高まると同時に、他の児童への刺激となった。また、教師が児童の気持ちを大切に、どんな小さなことでも児童がやろうとしていることに耳を傾け支援することで、児童が家庭で実践してみようとする意欲につながった。

資料1 授業風景（実験）



資料2 学習カード

自分のこれからの生活に生かせそうなことがあったら書きましょう

夏の通学服を選ぶ時は、ポリエステル100%
はあせをすいとらないので、綿100%を
選んだ方がよいと思いました。

資料3 家庭での実践カード

自分の反省・感想	家の人のことは
夏服は綿100%の物が多かった。吸水性が良かった。 洗たくが楽だった。品質表示を見て選んだ方がよいと思いました。	夏は汗をかき出 流れるので、綿の 服は汗をかき出 るのを防ぐので、 購入したTシャツ を綿100%のTシャツ に買い替えることに しました。

IV 研究のまとめと今後の課題

1. 研究のまとめ

(1) 指導計画の改善について

○第5学年では、作品の製作を通し、知識や技能が繰り返し学習できるように題材配列を工夫した。このことは、基礎的・基本的な知識や技能の習得に役立った。第6学年では、2学年を見通し、学習内容の系統性や発展性を踏まえて、題材を総合的に扱うことで、児童の学習活動が深まった。

(2) 指導法の工夫について

○第5学年では、製作物を日常生活での活用と結び付け、児童が目的をもって製作に取り組むようにした。また、一人一人の思いを尊重し、自分の作りたいイメージを大切にしたい製作活動を心がけた。第6学年では、課題解決的な学習を取り入れ、題材の導入の段階で「生活発見カード」を用いて日常生活を見つめ、その中から課題を見付けられるようにした。これらのことは、児童の関心を高め意欲を喚起することにつながった。

○家庭での生活経験が少ない児童は、授業での体験的・実践的な活動を通して、課題が明確になり「私にもできそうだ」「やってみよう」などの意欲的な態度を育むことができた。

○個に応じた教材・教具の工夫や教師の支援は、児童が「自分にもできる」ことの見通しや知識、技能を習得しようとする意欲を高めることができた。

(3) 評価法の工夫について

○学習カードや自己評価方法の工夫は、1単位時間毎の学習内容や成果を児童自身が確認でき、主体的に学習に取り組むことができた。

○作品発表会や実践報告会で児童相互に情報の交換や学び合い、認め合いをすることは、「自分にもできそうなことを見付けた」「友達の工夫が参考になった」などの思いが深まり、生活を豊かに楽しくし、具体的実践しようとする意欲を高めることができた。また、よりよい消費者としての意識を育てることになった。

○教師の共感的な支援は、児童のよさや可能性を伸ばし、実践する力を育んだ。

2. 今後の課題

○個に応じた課題解決的な学習は、多様な課題になることが多いので、指導内容を明確にした学習活動を展開する必要がある。

○児童自身が自分を振り返れるような多面的な自己評価や相互評価を工夫する必要がある。

○学校での学習が家庭での実践につながるような適切な支援を工夫する必要がある。